

科目名 (Eng)		倫理学 (Ethics)								
担当教員		笠井 哲								
対象学年等	学科・専攻	学年	授業期間	区分	単位数	時間数	分野	形態	学修単位科目	
	各専攻共通一般科目	1	前期	必修	2	30	一般	B	○	
目標基準との対応	福島高専の教育目標との対応： (A-1) . (A-2) . (A-3) . (A-4) . (A-5) .									
	修了時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応：1)									
		JABEE基準1 (I) との対応： (a) . (b) .								
授業の概要と方針		将来、専門職業人として求められる「職業倫理（技術者倫理・ビジネス倫理）」の基礎事項を学ぶ。それとともに、実際の事例に関するグループ討議等の模擬体験学習によって、倫理的な判断力を学習する。								
到達目標		①講義を通して、「職業倫理（技術者倫理・ビジネス倫理）」の基礎事項について、十分に理解することができる。 ②事例に関するグループ討議等の模擬体験学習を通して、専門職業人に必要な倫理的な判断力を身につけることができる。								
授業計画										
	週	授業項目	理解すべき内容				事前学習			
前期	1	倫理学の概念と理論	功利主義倫理学・義務倫理学・徳倫理学				①配付資料を、順番に整理してファイルしておくこと。			
	2	応用倫理学とは何か	生命倫理と環境倫理の成立と意義							
	3	職業倫理とは何か (1)	西洋における職業倫理の成立と意義							
	4	職業倫理とは何か (2)	日本における職業倫理の成立と意義							
	5	技術者倫理とは何か	技術者倫理成立の背景と意義							
	6	ビジネス倫理とは何か	ビジネス倫理成立の背景と意義							
	7	専門職業人の行動規範	倫理綱領ないし倫理規定の成立と意義				②前回の学習内容について、毎回誰かに3分でスピーチしてもらうので、整理しておくこと。			
	8	専門職業人の三つの徳	正直性・真実性・信頼性							
	9	事例への取り組み方	事例解決に必要な対処法（線引き法等）							
	10	専門職業人の責任の事例	公衆の安全に対する技術者の責任							
	11	内部告発に関する事例	組織における技術者の判断と行動							
	12	説明責任に関する事例	技術者の公衆への説明責任と信頼関係							
	13	安全性とコストの事例	コストと安全とのトレードオフ							
	14	製造物責任法の事例	技術者の安全への法的・倫理的責任							
	15	まとめ	技術者の次世代への責任							
試験について		期末試験は100分の試験を実施する。ただし、再試験の受験は、定められた期限内に課題を提出した者のみに認める。								
評価方法		定期試験の成績を60%、課題等の総点を40%として総合的に評価する。								
教科書		技術者倫理、松島隆裕、学術図書出版社；近現代の日本文化、新保哲、北樹出版								
参考書		はじめての工学倫理第2版、齊藤・坂下編、昭和堂；新聞；ビデオ								
関連科目		法学概論、法学、技術者倫理、科学技術史								
履修上の注意		事例に関するグループ討議では、将来の技術者側と経営者側という役割に沿ったロールプレイもするので、リアルに自分自身の問題と考えて積極的な態度で取り組むこと。 自学自習の確認方法：課題プリントを配付し、定期的に提出させる。								